

即興型ディベート

研究報告集

Research Report of PDA Conferences

ホテルフクラシア大阪ベイ

2019年8月8日（木）



一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

Parliamentary Debate Personnel Development Association (PDA)

目次

【即興型ディベート研究報告集】

- No.1 はじめに ～即興型英語ディベートのこれから～
大阪府立大学 中川智皓
- No.2 福岡県立城南高等学校における即興型英語ディベート実践
福岡県立城南高等学校 英語科
- No.3 山口県立宇部高等学校 即興型ディベート研究報告書
山口県立宇部高等学校 下田 寿男 教諭
- No.4 即興型ディベートを授業に導入して
福岡県立八女高等学校 松田 康子 教諭

はじめに

～即興型英語ディベートのこれから～

大阪府立大学 工学研究科 中川智皓

(一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事)

Society5.0の時代、人間としてどのようなスキルが求められ、どのような力を鍛えるべきか、教育界においてもしっかりと考えていくことは重要と言えます。また、様々なものがインターネットとつながり、瞬時に物事が進んでいく変化の急速な社会においては、時間資源もますます貴重になっていくと考えます。日本においては、働き方改革など教育現場においてもどのように時間を配分していくか転換期に差し掛かっているのではないのでしょうか。

今年度で6回目となるPDA全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会では、上記の背景を踏まえ、今一度、何のために即興型英語ディベートを行うのか、原点に戻って考えていただく機会にもなればうれしく思います。覚えたことを回答するクイズ王や資料検索、過去事例収集などはAIが得意とすることです。相手がどう思うか気持ちに寄り添いつつ、いかに論理的にかつ人間性も加味した自分の言葉でわかりやすく主張していくか、そのような訓練を即興型英語ディベートを通して行うことは、人間としての強みになるかもしれません。次期学習指導要領での新科目案「論理・表現」にも掲げられている通り、英語で即興で自分の意見を述べる力はグローバル社会において鍛錬すべき重要なことです。この力を学校教育における時間資源を有効に活用して鍛える手法として本合宿で取り扱う即興型英語ディベートの仕組みがお役に立ちますことを願っています。

本PDA全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会2019および研究活動について、以下、多くのご支援、ご協力、ご助言をいただきました。関係各位に心より感謝申し上げます。
公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、文部科学省、大阪府立大学、JST未来社会創造事業：「知」の循環と拡張を加速する対話空間のメカニズムデザイン ほか

※ここでは、パーラメンタリーディベートを通常授業（50分）に導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでいます。

パーラメンタリーディベートは、古くから世界で行われてきている議論の訓練方法ですが、それを日本の一般的な生徒が実施できる形式に、「システム」として落とし込んだ点がここでの特長です。ルールやスピーチシートをはじめとする考案したシステムは、単に一般的なパーラメンタリーディベートを簡素化したという位置づけではなく、議論の仕組みを整理し、教育的効果を高めるためのデザインが組み込まれています。ルールの一つ一つ、また教材の一つ一つに、なぜそのような設計したか理由があります。対話空間のメカニズムデザイン（制度設計）の観点からも、ディベート実践の分析と設計の両方の思考を持って、よりよい授業展開につなげることは重要です。本合宿でのディベートおよびジャッジ実践や他校の教員の皆様との情報交換を通して、即興型英語ディベートを実施することの本質を見定め、各校での授業につなげていただければ幸いです。

福岡県立城南高等学校における即興型英語ディベート実践

英語科

福岡県立城南高等学校

(1)はじめに

平成26年度から、学年進行で即興型ディベートの指導を始め、本年で6年目となる。全学年で実施。1学年ではディベートのフォーマットを身につけ、英語で意見を述べることに慣れることを目標とするところから始め、2年生では内容のある議論ができ、他人の意見を客観的に評価できるようにすることが目標。3年生では議論を元に、大学入試レベルの英作文を書けるようになることを目標とする。

(2)実践内容

本校での即興型英語ディベートの主な特徴は次の3点である。

1. 1・2年生全員を対象とし、正課授業等で指導

各学期期末考査後から長期休暇中に、正課授業および補習授業で指導している。試合を行うだけでなく、試合のフィードバックや事例研究も行っている。即興で話す際の「瞬発力」育成のために、授業に1分間スピーチやリテリングを導入し、ラジオ英語講座も活用してきた。また、内容のある議論ができるように、背景知識として使える文章（日本語・英語）も配布した。

2. 外部講師を招聘した特別講座実施

1年生の12月にクラス内対抗戦、2年生では9月と1月にクラス対抗戦を実施。PDAを通し、九州大学ESS等の学生を審判として招き、指導を受けている。特に、2年生1月の講座は、決勝戦を1・2年生全員に観戦させ、動機付けとしている。該当学年担当の本校教員も観戦し、地域の中学校・高等学校の英語科教員にも公開している。

3. ディベート関連英作文問題を定期考査に出題

各学期定期考査（年5回）で、与えられた論題に対する自分の意見を英語で書かせている。

事前に行った試合の論題や時事問題等にヒントを得た論題を出題している。



(3)まとめ

上記のような取り組みは、本校生徒の英語力向上に貢献しているようだ。特に英語ライティングとスピーキング能力は、GTECの全国平均を大きく上回っている。

より内容のあるディベートが行えるように、授業で読む、あるいは事前に読ませる題材選びには苦勞している。また、他教科での学習内容を活かせる工夫を模索している。

山口県立宇部高等学校 即興型ディベート研究報告書

下田 寿男

山口県立宇部高等学校

(1) はじめに

生徒の4技能向上とALTとの授業に学年としての一貫性をもたせるために、2016年度から3年間、一年生を対象として、10月以降の英語表現Ⅰの授業を利用して週1時間のペースでペアラメンタリーディベートを行っている。

(2) 実践内容

昨年度（2018年度）の日程は以下。

時間	日付	内 容
1	10/15~	ディベートについて説明
2	10/22~	グループ決め（発表）、ミニディベート
3	10/29~	Match #1 (Motion 1) 反論の仕方
4	11/5~	Match #2 (Motion 1)
5	11/12~	Match #3 (Motion 2) 質問の仕方
6	11/19~	Match #3 (Motion 2)、
7	12/3~	Match #4 (Motion 3)、ジャッジの仕方
8	12/10~	Match #4 (Motion 3)
9	12/17~	Match #5 (Motion 4)
10	1/9~	Match #5 (Motion 4)
11	1/15~	Match #6 (Motion 5)
12	1/21~	Match #6 (Motion 5)
13	1/28~	クラス予選①
14	2/4~	クラス予選②
15	2/18(月) 5,6,7 限	ディベート大会

例年、ALT がリーダーシップをとって行えるよう(場合によってはALT 単独でも行えるよう)、『授業でできる即興型英語ディベート』のハンドアウトに英語の説明をつけたシートを利用している。また、仕上げとしてディベートクラスマッチも行っている。

(3) まとめ

昨今の話せる英語重視の傾向もあり、教員生徒共に、取組状況は熱心であり、クラスマッチはいつも盛り上がりを見せる。課題としては、使う英語のレベルの向上を組織的に図ることが難しいことである。今後は1, 2学年で合同で実施する方向を検討している。

即興型ディベートを授業に導入して

松田 康子

福岡県立八女高等学校

(1) はじめに

PDAディベートとの出会いは、ディベートを授業に導入したいと思っていた時に、福岡県立城南高校から県内各校にディベートの公開授業の案内をいただき、参観させていただいたことだった。生徒たちの活発な意見のやり取りを見て、本校の生徒たちにもディベートに挑戦させようと考えた。昨夏、この合宿に参加し、他校の先生方の取り組みについて教えていただき、大変参考になった。本校でも数時間ではあるが、1年生を対象にディベートに取り組んでみた。

(2) 実践内容

学年全体で取り組む授業にしたかったということもあり、他の担当者とも協議の上、学年末考査が終わってからの6時間をディベートに宛てた。

□授業計画

- 1) 日本語で行う即興型ディベート・・・ディベートがどのようなものを体感させる
- 2) 英語で意見とその理由を述べる・・・強い理由を考える機会とする
- 3) 英語で反論を述べる・・・大きく3つの反論について学ぶ
- 4) ピンポンディベート・・・意見のやり取りに慣れる
- 5) 論題発表+準備・・・スピーチシート作成
- 6) ディベート・・・英語でのディベート+振り返り

□アンケート結果より

チームで説得力のある意見を考えることや、自分の意見を英語で短い時間で考えて述べなければならないことが大変ではあったがとても楽しかった、と多くの生徒が書いていた。9割以上の生徒が「ディベートは英語力向上に役立つ」と肯定的に捉えていた。また、「言いたいことはあるが、英語でどういふのか分からずイライラした。」という意見もあり、意見を自由自在に英語で述べられる語彙力や文法力を身につける重要性も多くの生徒が感じる機会となった。

- 参考書籍・文献 「即興型ディベート研究報告集 2018」
「授業のできる即興型英語ディベート」中川智皓
“Discover Debate” Michael Lubetsky 他

(3) まとめ

ディベートの指導については、英語の指導に加えて、論理的に意見を述べる、的確な反論をする、といった論理の面での力をどうやってつけていくか、といった点で、今後も研修していく必要性を大いに感じている。また、どのように継続して授業に取り入れていくか、仕組みを考えていくことが今後の課題である。

即興型ディベート研究報告集 PDA19-1

発行日 2019年8月8日

発行所 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

大阪府堺市中区学園町1-1 大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 中川研究室内